

ゼミブログを利用したフェノロジーカレンダーの作製と
今後の活用方策について（第3報）

**Creating a Phenology Calendar Based on the Blogs of
Sayama's Seminar at SPS in a Step toward Developing It
into Course Materials (third report)**

佐山 浩¹

Hiroshi Sayama

今回は標記第3報である。『総合政策研究』65号と67号では、当方のゼミブログをもとに、授業教材化に向けたフェノロジーカレンダーの作成過程などの取組を紹介した。フェノロジーカレンダーとは、花の開花やキャンパス行事などの情報を写真や音声などで見える化した一種のビジュアルカレンダーである。しかし、フェノロジーカレンダーを作成することは通過点である。目標はマイクロツーリズムの一種であるキャンパスツーリズムを確立することである。本稿では、2023年度に佐山ゼミがキャンパスツーリズム実現のために行った各種取組を紹介する。

In Journal of Policy Studies, No.65 and No.67 I presented the process of creating a phenology calendar based on the blogs of Sayama's seminar at SPS in a step toward developing it into course materials. The phenology calendar is a type of visual calendar which provides information about flower-blooming or school's regular events among others, using photos, sounds and videos. But to create the phenology calendar is not our goal. The object is to establish campustourism. Campustourism is a type of microtourism. This paper shows what our Sayama's seminar did to create the campustourism in the 2023 fiscal year.

キーワード：ゼミブログ、フェノロジーカレンダー、マイクロツーリズム、
キャンパスツーリズム

Key Words : the Blogs of Sayama's Seminar at SPS, Phenology Calendar,
Microtourism, Campustourism

はじめに

2023年度に入り5月には新型コロナウイルス感染症がインフルエンザと同じ5類感染症になった。この状況下「キャンパスツーリズムの確立」を目指して、当方の研究室（以下「ゼミ」という）では主に次のことに取り組んだ。

1. 学部研究室公式ブログ（以下「ゼミ公式ブログ」という）の発信
2. ゼミ3年生による神戸三田キャンパス（以下「KSC」という）フェノロジーカレンダー（以下「PC」という）の作製とリサーチ・フェア（以下「RF」という）での発表
3. 神戸三田キャンパス月々の花2024の選定
4. KSC花カレンダー（試行版）の作成
5. 自然解説マニュアル作成に向けたインタープリテーション学習
6. KSC植生区の設置と植生調査の実施
7. トートバック2024の作製
8. GPS活用のための試行と今後の計画

本稿では第3報として上記取組について順次、紹介していくこととする。

1. ゼミ公式ブログの発信

2021年度と22年度に引き続き、当方は「今週の三田・里山キャンパス」、ゼミ生は「学生生活の記憶」というタイトルで情報発信を行った。2023年度を総括すると順調にブログ数が伸びた。理由としては、新3年生の高橋悠と楠井美乃里、そして一年卒業が遅れることを覚悟の上でハワイ留学にチャレンジした谷口果穂（写真1）が定期的にあップしてくれたことが大きかった。一方で3名以外のゼミ生によるブログ更新は、やや少なかった。このため、秋学期には「アメ作戦」として頑張り具合に応じてフィールドワークを増やす、と

いうことを伝えたものの、思うような効果は得られなかった。アッパされた「学生生活の記憶」の内容を少し詳しく見てみると、KSC以外で出会う花なども比較的多かった。キャンパスの自然ばかりでなく、日常生活の中でも自然に関心を持ってくれることは良いことではあるが、一方でキャンパスの自然により以上に関心を持ってもらうための工夫も今後は必要との印象を持った。

2023-05-17
学生生活の記憶(281):ハワイ留学スタート



こんにちは。谷口果穂です。24日からハワイへ留学留学に来ています！これから半年間、留学を学ぶのはもちろん、現地の文化を学び、このブログで私が得た知識などをお知らせしたいと思っています！

写真1 ハワイに留学した谷口果穂のブログ

2. ゼミ3年生によるKSCのPCの作製とリサーチ・フェアでの発表

2022年度にゼミ3年生を2つの班に分けて作製させたことである程度目途が立ったので2023年度は個人課題として3年生全員に作製させた。そして総合政策学部主催のRFに全員参加した。RFは大学のHPで「関西学院大学総合政策学部では、学生・院生が日頃の研究成果を発表する『知

の祭典として、リサーチ・フェアを毎年開催」と紹介されている。まさに総合政策学部の一大イベントである。例年、11月第3週の金・土の2日間行われている。参加者は総合政策学部及び総合政策研究科の学生がメインとなっているが、他学部の学生も参加している。また、近隣の高校生をはじめ、岡山や京都からも例年参加している常連校の生徒さんたちがいる。総合政策学部がどのようなことをやっているのか、また、総合政策の学生がどのような感じなのか、高校生の皆さんが知るための良い機会となっているようだ。

2023年の佐山ゼミの発表では、3年生全員のPCが展示できる広さの教室を借りた。「今日は半日PCまつり」と題して、金曜日の午後に自由発表形式部門に参加した。また来場者には投票してもらって、投票の多かった順に後日1位から3位を決めた。受賞者には、ご褒美として私のポケットマネーで食事を御馳走した。その他、来場者にはその場で自ら描いてもらった絵を缶バッチにしてもらうなど、来場の記念品として持ち帰っていただく試みもした。借りた教室が口頭発表やポスター発表から離れていたために来場者が少なかったことは反省点である。他方、2024年度も引き続き、ゼミ3年生全員に作製してもらい、RFに参加する予定である。

今回のPCの作製では、こちらから「ひな型」を示した。幸いなことに2年次の「総合政策演習(パークマネジメント)」でPCを一度経験している学生が2名いたので、何か困ったことがあれば、まずは彼女たちに聞くように伝えた。振り返ってみると、ひな型を与えてしまうと個々人の自由度が制約されてしまうためか、同じようなものが多かった。この結果から、2020年度から2024年度までの取組の成果として暫定的ではあるもののとりあえず完成版を作製してしまおうか現在、迷っているところである。



写真2 RFの様子

3. KSC 月々の花2024の選定

秋学期の授業中に3年生に選定の方針を伝え、佐山ゼミの恒例行事である「ぼたん鍋合宿」(今回は2024年2月)のメインイベントとして行った。前年度のように事前に3年生に候補を選んでもらうことはしなかった。一度2023年度に選定しているので、その微修正を念頭に考えた。ゼミ合宿には3年生9名が参加した。その9名を言わば「佐山ゼミ KSC 月々の花2024選定委員会」の委員として任命し、昨年と同様、次の選定基準により進めた。

1. キャンパス内にあり容易に見つけられる
2. 学生生活やその記憶と深い関わりがある
3. 描きやすい、写真で映える
4. 佐山ゼミの歴史には不可欠
5. 二種以上も可とする

夕食をしながらの熱心な議論の末に選定された月々の花は次のとおりである。

4月：サクラ類

5月：ツツジ類、ハナミズキ、ヤマボウシ

6月：タイサンボク、キンシバイ

7月：アジサイ

8月：サルスベリ、シンテッポウユリ

9月：ハギ(新規)、ヒガンバナ

10月：キンモクセイ

11月：サザンカ

12月：ツワブキ

1月：ウメ、ツバキ（12月から変更）

2月：ロウバイ、マンサク

3月：ジンチョウゲ、アセビ、トサミズキ &
ヒュウガミズキ（新規）

以下、前年度から変更のあったものの理由等について述べていきたい。

(1) 4月のサクラをサクラ類とした理由

KSCのサクラは大別するとソメイヨシノとシダレザクラの2タイプである。2023年のソメイヨシノの開花は3月20日前後で例年より少し早かったが、通常の開花が4月中旬以降のシダレザクラとともに「サクラ類」として4月の花とした。以前から、佐山ゼミではI号館横のソメイヨシノをサクラの開花標本木としてきていたので、今回、これも正式に決めた。標本木が花を5つ付けたら開花日である（写真3-1, 3-2）。



写真3-1, 3-2 佐山ゼミの開花標準木



写真4 シダレザクラ

(2) 5月のツツジをツツジ類とした理由

これも4月と同様な理由である。開花の早いものと遅いものの2系統に大別できる。早い方は4月下旬頃から咲き出し、5月中下旬になると遅い方が開花する。このことを踏まえてツツジ類として一括りにして5月の花とした。



写真5 早咲きのツツジ



写真6 遅咲きのツツジ

(3) 9月にハギを追加した理由

KSC 及びその周辺にマルバハギをはじめ数種類見られる。このため9月を彩る花として新たに追加した。



写真7 マルバハギ

(5) 3月にトサミズキ&ヒュウガミズキを新規で追加した理由

I号館玄関前をはじめ、3月を彩る花として今回、追加したものである。



写真10 トサミズキ

(4) ツバキを12月から1月に変更した理由

ツバキはカンツバキ系とヤブツバキ系が対象である。サザンカが咲いてから、少しタイムラグがあって白花のものがまず咲くことが分ってきた。このため、1月の花に変更したが、赤花のものは、それよりも遅咲きであり、もう少し観察が必要であると考えている。



写真8 白花のツバキ



写真9 ヤブツバキ系

4. 花カレンダー（試行版）の作成

これまでのブログの更新状況を踏まえて暫定的に作成した（表1、P151）。とりあえず、ブログの更新日時をベースにしたものであるため、花が咲き出した時期や花が終わりかけてきた時などにまだまだ改善の余地がある。また、ハナミズキやヤマボウシなどの場合には苞を花びらと勘違いする場合も多いので、この辺りの表現にも検討の余地がある。マンサクもいくつか種類があり、今後はマンサク類としてまとめる、あるいは逆に分ける選択肢もあると考えられる。

5. 自然解説マニュアル作成に向けたインタープリテーション学習

2023年度は、春学期期間中（7月6日）のゼミ時間を利用して行った。講師には2022年度に引き続き「森のガイド」として、現在香川県に拠点を置いて活動中の横山昌太郎さんをお願いした。まずは「インタープリテーションとは何か」について室内で教えていただいたあと、横山さんが配付した資料を持ってゼミ生と野外へ出た。今回、横山さんは霧吹き以外にもスマートフォン用のマク

ロレンズ（俗称：100均マクロ）をコケの観察などに有効活用していた。早速、2024年度の3年生から、この100均マクロをゼミ活動の必須アイテムとして取り入れることにした。

今後横山さんと一緒に作成予定の「キャンパスツアー解説マニュアル」はオープンキャンパスなどで佐山ゼミ生が高校生をはじめとする来校者用のものにするのが目標である。また、横山さんには2023年度から総合政策学部の「野生動物共生論」の講義をお願いしており、今後、インターブリーションに関する講義も一緒にやりたいね、と話しているところである。



写真11 コケに霧を吹きかけて観察

6. KSC 植生区の設置と植生調査の実施

植生区の設置は総合政策演習（パークマネジメント）の時間を活用し、講師の兵庫県立人と自然の博物館の橋本佳延さんに指導していただいた。3本の巻尺を利用して、三平方の定理から直角を作り、10 m×10 m の方形区を2ヶ所設けた。

植生調査は、専門家2名（中西収さん、高須佳代さん）の協力を得て2023年10月18日に実施した。総合政策研究68号に「KSC 植生調査報告書」として掲載されているので参照いただければ幸いである。



写真12 植生区設置の様子

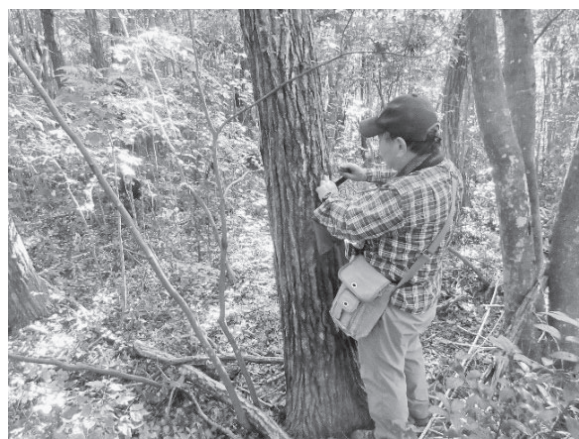


写真13 植生調査の様子

7. トートバック2024の作製

今回は総合政策学部、そして総合政策研究科と6年間をKSCで過ごし、現在、関西学院大学文学部にて勤務する職員的小林真洋さんをお願いした（写真14）。KSCの正門を真ん中にキャンパスで見られる花等を回りに鏤めた見事なデザインである。小林さんは総合政策学部の授業で私が担当する里山実習にも協力いただいている。2024年度にはゼミ生に対する消しゴムはんこ作りの指導もお願いしているところである。ゼミ生にはキャンパスの花を題材に消しゴムはんこを作ってもらい、これを活かしたデザインのトートバック2025を作る予定である。



写真14 完成したトートバック2024



写真15-2 数字(43)プレートが掲示された樹木

8. GPS 活用のための試行と今後の計画

2024年度こそ、KSC 内の樹木等の位置図を完成させようとまずは試行を進めた。有馬富士公園ではセルフガイド用の数字が表示されたプレートがある（写真15-1,15-2）。この番号を手掛かりに植物観察の出来るガイドブックが別途、販売されている。2024年4月13日、この数字プレートの付いた樹木の位置をGPSで計測した。60進法の計測データを10進法に変換して、CSVファイルとして整理した。それを国土地理院地図にドロップしたものが図1である。とりあえず試行は成功したので、まずはブログにアップしたものから始めることとしている。



図1 背景地図に地理院地図（タイル）を使用

おわりに

～キャンパスツーリズムの確立に向けて～

6月初旬に提出した本原稿が印刷されるのは10月初旬の頃だろうと思う。今後も随時、『総合政策研究』にて進捗状況をお知らせする予定である。

次号以降もお楽しみに!!



写真15-1 数字(39)プレートが掲示された樹木

表1 KSC 花カレンダー (暫定版)

植物名	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
サクラ類	●											●
ツツジ類	●	●										
ハナミズキ	●	●	●									
ヤマボウシ		●	●									
タイサンボク		●	●	●								
キンシバイ		●	●	●								
アジサイ			●	●	●							
サルズベリ				●	●	●	●					
シンテツポウユリ					●	●	●					
ハギ (マルバなど)					●	●	●	●				
ヒガンバナ						●	●					
キンモクセイ						●	●	●				
サザンカ							●	●	●	●	●	●
ツワブキ								●	●	●	●	●
ウメ	●									●	●	●
ツバキ	●	●								●	●	●
ロウバイ										●	●	●
マンサク	●		●							●	●	●
ジンチョウゲ											●	●
アセビ	●										●	●
トサミズキ・ヒユウガミズキ	●										●	●

2024.5.31.作成